

# どつちが大事やねん 「世界一高い」と「命」

## 2・8 豎川行政代執行を許さない！

東京スカイツリーオープンの陰で労働者の命はゴミ同然の扱い。野宿者を支援してきた組合員から「ともに抗議の声を」と投稿を頂きました。大阪でも橋下市長が「西成を特区に」とブチあげ、今まで以上に労働者の居住権、生存権が奪われようとしています。ご注目とご支援をお願いします。

### 一人を百人で排除

五月開業がメディアでも取り上げられている、東京スカイツリー。そこ

からほどないところにある、江東区・豎川河川敷公園で、二月八日野宿者強制排除が起きました。百人以上もの区職員、ガードマン、警察官が突入してきて暴力的に解体・撤去したのは、Aさんの生活するたった一軒の小屋でした。

### 区は話し合いを放棄

豎川河川敷公園で暮らす人々に対し、江東区が

改修工事を理由として一方的に立ち退きを求めてきたのは、〇六年三月。団体交渉の席で区職員は

「排除はしない」と明言し、一旦全面改修工事を中止したものの、〇九年

になって、再び改修工事を計画を持ち出します。公園で暮らす人たちは、「排除はしない」との確約にもとづき、区との交渉を重ねながら工事に協力してきました。Aさん

を含む十五人が暮らしてきた今回の代執行の対象区域も、そのような経緯の中で一〇年九月に、区

が工事のための「移転地」として指定したものでした。にもかかわらず区は、

一一年九月末の団交を最後に話し合いを放棄し、ガードマンを使っての嫌がらせを繰り返しながら計五度にわたる「警書」、

「指示書」をテントや小屋に貼り、十二月二十二日には「弁明機会付と通知」、一月十二日には「除却命令書」そして一月二十日には「戒告書」

を交付するという行政代執行手続きに入ったのです。移転地を用意することもないままに区が代執行手続きを進める中、対象区域で生活してきた人たちは、自らテントを移動しました。公園内のす

でに工事を終えた区域に移動したにも関わらず、

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

区は一月二十七日、百人のガードマンと作業員を動員して、移動したテナの周囲をフェンスで取り囲み封鎖するという暴挙に出ました。

### 一人残ったAさん

そして一月三十日、区はAさんに対して「行政代執行令書」を手渡したのです。六十代半ばになるAさんは、若い頃から二十年以上にわたってフォークリフトや玉掛けなど港湾の倉庫作業に従事してきましたが、会社の倒産により失業、二十年前から野宿を余儀なくされ、十五年前から豎川で暮らしてきました。Aさんも

工事の完了した区域へ移るつもりで、代執行の期限を気にしながら少しずつ荷物の整理を進めてきました。体が調がすぐれないため、なかなか作業も進みません。周囲の間も引越し作業の手伝いを申し出ましたが、「自分の荷物は自分でまとめたい」というAさんの気持ちを尊重して、彼を見守りつつも、区に対しては、Aさんには移動の意志があり話し合いに応じよう共に声をあげ続けてきました。

### Aさんへの

### 「気づかい」はウン

二月八日の午前八時半、

代執行宣言が聞き取れないほどの早口で読み上げられた後、「自分で片づける」というAさんの言葉を無視して区のヘルメットを被った作業員が突入、小屋を破壊し撤去しました。「羽交い絞めにしろ」「手を持って(排除しろ)、ほら」という担当課である水辺と緑の課長・荒木自らによる指示のもと、職員がAさんを支えようとする仲間たちを両手足をつかみ宙づりにする、引きずるなどして力づくで排除し、仲間と引き離されたAさんを区職員、ガードマン、警察官が大勢で威圧的に取り囲みました。

職員とのやりとりの中で疲弊し、血圧が二百を超え意識も朦朧としていたAさんを江東区は「救急搬送」しますが、同乗を申し出た仲間を排除し、区職員と警察官が救急車に乗り込みました。豎川から十キロも離れた搬送先の病院を仲間が探し出し駆けつけた時、そこにはAさんの姿はなく、病院職員は「一時間ほど前に退院されました」と言います。粉雪が降る中、仲間があたりを探すと、病院から少し離れた路上に髭と髪を剃られたAさんがうずくまっています。

江東区は病院に搬送さ

れたAさんに対し、生活保護の申請を勧めたとい  
います。資本による使い  
捨てと行政の無策の中、  
十五年以上にわたって、  
豎川で自力で暮らしてき  
たAさん。その小屋を暴  
力的に破壊し、自分と仲  
間とを強制的に引き離し  
た江東区に、今さら追  
出しの道具としての生活  
保護を提示されたところ  
で、そんなものが受け容  
れられるでしょうか。こ  
の間区が実施してきた、  
「豎川河川敷公園路上生  
活者自立支援事業」とい  
う名の、一年間限定の家  
賃無料のアパート提供事  
業などを見ても、契約は  
サブリース契約で入居者

の居住権は著しく制限さ  
れ、また入居者の留守中  
に区職員や委託民間団体  
が立ち入ることを認める  
同意書に署名を強要する  
など、立ち退きに対する  
生活保障とは到底かけ離  
れたありようです。

### 代執行を正当化する区

その後、江東区は二月一  
日発行の区報第一面に  
「区では現在、安全な利  
用が担保できないため、  
区立豎川河川敷公園の一  
部を閉鎖しています。」  
という文に始まる記事を  
載せ「路上生活者と、支  
援者と称する多くの者が  
多目的広場に次々とテン  
トを設置し、不法占拠し

ながら工事を妨害してい  
る」など、野宿者を危険  
な存在だとして差別・偏  
見を煽っています。行政  
代執行という、区自らが  
為した人間の命を踏みこ  
じる行為を全く省みるこ  
となく、市民と野宿者の  
間に敵対関係を作り出す  
ことで正当化しようとし  
ているのです。そしてま  
たしても区は、「指示書」  
を移転したテントに貼り  
に来ています。再度の行  
政代執行を、ちらつかせ  
ているのです。

### あの日の怒りを忘れない

このような強制排除は  
決して豎川に限った問題  
ではありません。墨田区

堀切の荒川河川敷におい  
ては、代執行手続きを経  
ることすらないまま、い  
きなりやって来て工事を  
名目にテントを破壊する  
ということが国土交通省  
により為されました。そ  
して関西に暮らす私たち  
にとっても、決して遠く  
の出来事ではありません。  
二〇〇六年から二〇〇七  
年にかけて大阪の靱公園、  
大阪城公園、長居公園で  
行政代執行が行われ、私  
たちは大阪市によるテン  
トに住む人を暴力的に排  
除し本人の目の前で住居  
を破壊し持ち去るとい  
う人間を人間とも思わない  
行為を目の当たりにしま  
した。豎川・荒川での強

制排除について知った時、私たちは大阪での代執行の時の深い怒りの記憶から、いてもたってもいられず「豎川・荒川の仲間と連帯する関西有志」として行動を起こしました。現地へ身を運びテント村の仲間たちと起居しながら、共に強制排除に抗議の声を挙げ続ける、また同時に関西でも現地の闘いを発信し続けるという取り組みをしています。

### 分断を超えて

さらなる代執行の不安と緊張にさらされながらも、自力で移転を勝ち取った豎川の新テント群は健在です。そしてそこには

仲間と共に豎川へ戻ったAさんの新しい小屋も建ちました。前述したようにフェンスで周囲を封鎖され、またそのために水道が使えなくなる、リヤカーでアルミ缶集めに出かけることもできなくなるといった江東区の暴挙によるさまざまな困難に直面しつつも、どっかい仲間は生きています。三月四日に開催された「豎川ピンボーまつり」は、豎川にテントを建てることで命をつないでいる人たちが、「我々はここにいろぞ」と自らの存在を社会に大きく知らしめるものでした。いま、私たちはその声はどう応える

のか。沈黙と無関心が生み出すものはさらなる分断です。一人でも多くの方が、テント村にある温かい人のつながりにふれられ、そして共に反排除の声をあげられんことを

願っています。ご注目を！  
(豎川・荒川の仲間と連帯する関西有志)

## 2012年春闘勝利！ 官民連帯総決起集会

日時：3月14日（水）18：30～

場所：入舟公園（港区八幡屋）

主催：港地区平和人権連帯会議

【スローガン】

- ☆ 公務員削減 反対！
- ☆ 南労会闘争 勝利！
- ☆ 大阪港軍港化 阻止！
- ☆ 派遣法・非正規職 撤廃！